17 世紀フランス霊性
パスカルの回心

小泉友美KOIZUMI Tomomi

目次

17 世紀フランス霊性 1

目次

17 世紀フランス霊性

17 世紀フランス霊性 ブーレーズ・パスカルの回心の神秘体験
(17 世紀ユマニズム・デボ運動と厳格スピリチュアリズムのジャンセニズムにおけるパスカルの回心)

ブーレーズ・パスカル Blaise Pascal (1623-1662 年) は、1623 年にフランス中部クレルモンの法律家の家に生まれました。数学・哲学者であるブーレーズ・パスカルの霊性は、ユマニズム・デボ (Humanisme dévot 敬虔なヒューマニズム運動 1580 年から 1660 年) の愛と優しさに重点を置いたフランス・カトリック寛容的スピリチュアリズムと、人間の罪深さと神の恩寵の絶対性を説く、厳格スピリチュアリズムのジャンセニズム (Jansénisme 1640-1713 年) の流れにあります。
フランソワ・ド・サール (1567-1622 年) がユマニズム・デボの霊性を持つ神学者であり、ブーレーズ・パスカルの霊性はジャンセニズムに深い影響を受けました。ジャンセニズムは 17 世紀に流行した厳格派キリスト教思想の一派で、ネーデルラント出身の神学者コリネリウス・ヤンセン Cornelius Jansen (1585-1638 年) の名を取り、人間自ずの意志の力を軽視して、腐敗した人間の本性の罪深さに着目して、恩寵の必要性を説きました。
1646 年から 1647 年に書かれた Sur la conversion du pécheur 罪人の回心についてのテキストに、その回心の精神的背景が理解出来ます。
1654 年 11 月 23 日に Feu (火の夜) と知られる、強烈な神秘体験を得ました。
ここでは、パスカルの回心をテーマに、この 2 作 : 罪人の回心についてと火の夜を紹介してゆきたいと思います。
引用及び参照に用いた外国語の参考文献は、私自身の翻訳です。

罪人の回心について (1646 年から 1647 年)

このテキストは、1646 年から 1647 年の間に書かれました。様々な世俗のものに執着してきた罪ある人が、神無き人間の空しさを痛感して、キリストの恩寵による心の目覚めによって、唯一の真の神を求めてゆき回心してゆきます。死のテーマも象徴的で、世俗の魂がこれまで愛着を抱いていた富や名誉、快楽という世俗の執着が、死によって消え、いずれ無 (néant) に帰ってゆきます。自分自身の力では救われず、ただ神の憐れみと恩寵によってのみ、神に全てを委ねて、救われる事を知ります。この魂の回心は、まず世俗の喜びに浸っている事に気づき、苦しみを覚えながらも、回心への敬虔な行いの中に入ってゆきます。人は脆い存在で、死によってすべてが失われ、混乱と動揺にせめられ

ます。そして、困窮した者として、神に熱心に祈りを捧げます。テキスト全体に、パスカルの傾倒したジャンセニズムの罪の意識と、神のみに頼るという心が伝わって来ます。以下に紹介するテキストは、パスカルの回心にうったえる文章の、一部です。
このテキストでは、un scrupule 良心の呵責、vanité du monde 世俗的な虚栄、fragile 魂の脆さ、néant 無、aveuglement 盲目的、périssable 滅びゆくもの、ardentes prières à Dieu 熱心な祈り、la faiblesse naturelle 生まれつきの弱さ等の語彙が目立ちます。

神が最初に、真に魂に授けるのは、並外れた知識と洞察力であり、それによって魂は物事や自身自身を全く新しい方法で捉える事が出来る。
この新たな光は魂に畏れを与えて、かって魂を喜ばせていたものの中の見出した平和を乱してしまう。
魂はもはや、かって魅了していたものを穏やかに楽しむ事が出来ない。絶え間無い良心の呵責が、この喜びの中で魂を苦しめ、この内なる幻影は、かって魂が心のすべてを注ぎ込んで身を委ねていたものの中に、慣れ親しんだ甘美さを見出す事を許さなくなる。しかし、魂は世俗的な虚栄よりも、敬虔な行いの中に、より大きな苦々しさを見つける。
一方では、目に見えるものの存在が、目に見えないものへの希望よりも魂を強く動かし、もう一方では、目に見えないものの堅固さが、目に見えるものの虚栄よりも魂を強く動かす。こうして、魂の愛情を競い合い、一方の虚栄ともう一方の不在が、魂の嫌悪感をかき立てて、魂の中に混乱と動揺を生じる...
魂は朽ちるものを朽ちゆくもの、あるいは既に朽ち果てたものと見なし、愛するもの全てが消滅するのを目の当たりにして、恐怖を覚える。一瞬にして、魂は所有する事の喜びを奪われて、最も大切なものが刻一刻と失われてゆく事を悟り、そして遂には、希望託していたすべてのものが失われてしまう。
こうして魂は、脆く、虚しいものばかりに執着してきたばかりに、人生の終わりには魂が孤独で見捨てられる運命にあること。何故なら、この世と死後に支えてくれる真の善に身を委ねる事を怠ったからである。
こうして魂は、天、地、精神、体、両親、友人達、敵達、財産、貧困、不名誉、繁栄、名誉、尊敬、軽蔑、権威、困窮、健康、病気、そして生命そのものなど、いずれ無に帰する、1 つの無とみなすようになる。
そして最終的に、短い期間しか続かない運命にあるものは、全て、永続的な幸福を確立しようと切望する魂の目的を満たす事が出来ないのである。魂はこれまでどれ程、盲目的な状態で生きて来たか驚く。そして、一方では、長い間考えずに生きて来た事、同じ様に生きている人々が大勢いる事、他方では、魂は不滅である以上、滅びゆくものの中に、幸福を見出す事は出来ず、少なくとも死によって、奪われるものであると言う事実がいかに普遍的であるかを考えると、魂は神聖な混乱と驚きに陥り、魂にとって非常に有益な動揺をもたらす。魂は、世の格言に従って老いる人々の数がどれ程多くても、また、幸福を世に持つ人々の無数の模範がどれ程権威を持っていても、たとえ世俗的なものに確固たる喜びがあったとしても、それらのものを失う事、あるいは死によって、最終的にそれらを奪われる事は避けられない為、魂は金であれ、知識であれ、名声であれ、いかなる現世の財産を蓄積していても、幸福の対象であるそれら全てが奪われる。

創造主以上に愛すべき被造物はいない事を理解し、恵みの光に助けられた理性によって、神以上に愛すべきものは無く、神を拒絶する者からのみ神を奪う事が出来る事を悟るからです。神を欲する事は、神を所有する事であり、神を拒絶する事は神を失う事なのです。
魂は神に熱心に祈りを捧げ、神が慈悲深くご自身を魂に示してくださった様に、魂を導き、神にたどり着く手段を示してくださる様に願う。
魂は残りの人生を意志に従わせる事を決意したが、生まれつきの弱さと罪を犯す癖が相まって、この幸福を達成する事は不可能だった。
魂は、神に近づき、神にすがりつき、永遠に神に寄りそう為の手段を神の慈悲に懇願する。
このようにして、魂は被造物として神を崇め、恩義あるものとして感謝を捧げ、罪深き者として、要求に答え、困窮した者として祈る。

Le feu (火の夜) の神秘体験について (1654 年 11 月 23 日月曜日)

火の夜は、メモリアル Mémorial と言う、羊皮紙に記された 2 枚のパスカルの神秘体験の記憶です。
この二重原稿は、身に付けていた上着の裏側にパスカルが自分で縫い付けました。1654 年 11 月 23 日月曜日の午前 10 時半から翌日の 24 日火曜日の午前 0 時半頃まで起こった出来事は、火の夜の体験として記録されました。この神秘体験の原稿には、聖書の引用と関連付けられており、旧約聖書の出エジプト記 3,6 ルツ記 1,16 詩篇 118　ヨハネの福音書 17, 3 17,25 20,17 の引用がされ、特にヨハネの福音書 17,3 の永遠の命が強調されています。
この feu (火) は神そのものであり、心の道によって、理性を照らす、神によって受けられたものです。
パスカルの罪とは、神以外のものに関心を寄せてしまった為に、自分自身がキリストから逃げ、捨てて、十字架にかけられた事をここでは強調しています。また、真の唯一の神、キリスト、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神を探す事が書かれています。
この原稿は、2 枚から成り立ち、I と II として、ここでは紹介したいと思います。

テキスト I
( ) は聖書の引用より

恩寵の年　1654 年。
聖クレメンス教皇、殉教者、その他の殉教者伝に記された殉教者達の日。聖クリソゴノス殉教者、その他の殉教者達の祭の前夜。
午後 10 時 30 分頃から午前 0 時 30 分までの体験。
火
アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神 (出エジプト記 3,6：わたしはあなたの父の神

である。アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である。) 哲学者達や学者達の神ではない。確信、確信、感情、喜び、平和。イエス• キリストの神。私の神そしてあなたの神 (ヨハネの福音書 20,17 : 私の父であり、あなたがたの父である方、また、わたしの神であり、あなたがたの神である方のところへわたしは上がる。)
あなたの神は私の神となる (ルツ記 1,16 : あなたを見捨て、あなたに背を向けて帰れなどと、そんなひどい事を強いないで下さい。わたしは、あなたの行かれる所に行き、お泊まりになる所に泊まります。あなたの民はわたしの民、あなたの神はわたしの神。)
神を除いたすべてのもの、そして世界の忘却。福音で説かれた道を通してのみ見出される。
人間の魂の偉大さ。
義なる父よ、世界はあなたを知りませんでしたが、私はあなたを知っています。(ヨハネの福音書 17, 25 : 正しい父よ、世はあなたを知りませんでしたが、わたしはあなたを知っており、この人々はあなたが私を遣わされた事を知っています。)
よろこび、よろこび、よろこび、喜びの涙。
私は神から離れました。
彼らは私を見捨てたけれども、私は命の水の泉。
(エレミヤ書 2, 13 : まことに、我が民は二つの悪を行った。生ける水の源であるわたしを捨てて無用の水溜めを掘った。水を溜める事の出来ない壊れた水溜めを。)
私の神よ、あなたが私の元を去るのなら、私があなたと永遠に離れ離れにならな様にして下さい。
永遠の命とは、唯一のまことの神であるあなたと、あなたが遣わされたイエス• キリストを知る事です。
(ヨハネの福音書 17,3)
イエス• キリスト
イエス• キリスト
私は神から離れて、神から逃げ、神を否定して、神を十字架にかけました。
どうか、私が神から決っして離れません様に!
福音で教えられた道のみ保れます。
完全で、穏やかな放棄。
等

テキスト II
恩寵の年 1654 年。
11 月 23 日月曜日、聖クレメンス教皇, m, その他の殉教者伝に記された殉教者達の日、聖クリソゴノス殉教者 m, その他の殉教者達の祭の前夜、等。
午後 10 時 30 分頃から午前 0 時 30 分まで (の体験) 。
火
アブラハムの神。イサクの神。ヤコブの神。哲学者達や学者達の神ではない。
確信、よろこび、確信、感情、視野、よろこび、イエス• キリストの神。

私の神そしてあなたの神。
ヨハネ福音書 20, 17
あなたの神は私の神。ルツ記。
神を除いたすべてのもの、そして世界の忘却。
福音で説かれた道を通してのみ見出される。
人間の魂の偉大さ。
義なる父よ、世界はあなたを知りませんでしたが、私はあなたを知っています。
ヨハネ福音書 17
よろこび、よろこび、よろこび、そしてよろこびの涙。
私は神から離れました。
彼らは私を見捨てた。
私の神よ、あなたが私の元を去るのなら、私があなたと永遠に離れ離れにならない様にして下さい。
永遠の命とは、唯一のまことの神であるあなたと、あなたが遣われたイエス• キリストを知る事です。
イエス• キリスト
イエス• キリスト
私は神から逃げて、神を捨て、神を十字架にかけました。
私は神から離れました。どうか、私が神から二度と離れません様に
福音で教えられた道のみ保たれます。
完全に穏やかな放棄。
私の主であるイエス• キリストに完全への服従。
地上で活動する一日の為に、永遠のよろこびにある。
私はあなたの言葉を決っして忘れない。
(詩篇 118,16：わたしはあなたの掟を楽しみとし、お言葉を決っして忘れません。)

2026 年 11 月 12 日　フランス• アンジェ Angers Peace 平和

17 世紀フランス霊性 ブーレーズ･パスカルの回心の神秘体験

著　者　　小泉友美 Koizumi Tomomi

制　作　　Puboo
発行所　　デザインエッグ株式会社